

平成 14 年 11 月 28 日

平成 14 年度第 2 回総合目録データベース実務研修 (目録担当者コース)

関戸・斉藤・柿本・雪下

グループ演習「目録データの品質管理」

品質管理の現状

・総合目録データベースの品質管理の手段として日夜レコード調整が行われているが、現在のレコード調整は収まりのいい方へ、規則上間違っても運用上敢えて間違っている方を残すこともありえる。すなわち NACSIS-CAT においては、重複がないことを「質」として品質管理してきた。

・数値データ (図書について)

新規書誌作成 約 50 万件弱 / 年

修正書誌 約 100 万件 / 年

削除書誌件数 約 1 万数千件 / 年

・実際の NII の対応は件数の上からも後手後手にまわっており、参加館からの報告に頼っているのが現状である。そこから重複書誌をなくすという品質管理に限界がきていると考えられなくもない。

・「重複書誌は悪か」

現在 NACSIS-CAT では重複書誌がないことを主眼として品質管理を行っている。実際のデータでは年間一万件以上の書誌が削除処理されているが潜在している重複書誌の総数はもっと多いと思われる。そして数字的にはもはや無視できない状況になってきており、外部からも重複書誌がないことを前提としたデータベースとしての質の低下が指摘されていると聞いたことがある。重複書誌が悪かどうかの話題はこのことから出てきたと思われる。

仮に重複書誌を認めたとしてみよう。

そのような世界で利用者が書誌検索を行った時、同一資料の書誌が数十件さらにキーワードで検索するとさらに別の資料の書誌が数十件ヒットすることがありえる。

果たしてこのような状況が利用者にとって有用かどうか？おそらくは使いづらいと感じると思う。結果的には重複書誌は悪だと思うのだが、ではどのようにして無視できない重複書誌を減らしていくのだろうか。

以下の議論は重複書誌は悪であるということを前提として話をすすめていきたいと思う。

品質管理の問題点

- ・新 CAT によって、また参加館の増加によって、目録担当者の能力にばらつきがある。
- ・人的に余裕がない、また目録部門を外注化しているなどの理由から書誌調整に対応しない館も存在する。

品質管理の対応策

1 重複書誌をいかに減らすか

- ・目録規則の一定の理解と困った時のマニュアル類の使い方の理解
- ・目録クライアント操作の習熟
- ・重複レコード報告の簡略化
- ・機械による自動同定機能の利用 OCLC では運用されているが参考にはできないか

2 地域講習会後のバックアップ体制の整備

- ・チュートリアル(自習システム)の開発

3 目録規則の整備

- ・コーディングマニュアルなど、NAC SIS - CATで適用される目録規則の整備

4 各参加館の善意による共同目録のあり方を変更する

- ・所蔵登録を行わない館(ダウンロードのみやILLのみ等の館)にデメリットを与える
- ・作成館責任をなくすかどうか 書誌調整センター館構想

5 広報の必要性

- ・共同目録としてのNAC SIS - CATの理念
- ・共同目録DBとしてこれだけの規模のものを維持しているのは世界でもあまり例がない

品質管理の今後

総合目録データベースの行方

・NIIの担当者に伺ったところ、今後も書誌登録の作成館責任については当面維持していく予定であるということであった。

・そのためには今以上に総合目録データベースの質というものを目録をとる人に意識させる必要がある。年間一万数千件におよぶ書誌削除数、潜在的な重複書誌がどの程度にのぼるか把握できていない現状をどれほどの人が認識できているのだろうか。

・もちろん意識の徹底だけで問題は解決しないであろう。目録をとる人のNIIのバックアップ体制(コーディングマニュアルの整備、書誌調整の積極的なバックアップ)は是非行っていただきたいところである。

・あるいは書誌作成の責任をある特定の館にまかせる、各参加館で作った場合は画面のコピーを特定館にFAXする?ということも考えないといけないのかもしれない。

謝辞

今回のレポート作成においてはコンテンツ課の岡田さんその他の方々にご協力いただきました。この場を借りてお礼申し上げます。